



永久平和を願って 次世代に戦争体験を語り継ぎたい

私の戦争体験談 ④

秘書広報課 ☎24-8801

昭和十九年、大東亜戦争（太平洋戦争）も過酷さを増して来た頃、今こそ国のために奉じんと「女子年少工」に志願した。十五歳の春、香川県で二十名の選抜である私達は丸亀市で受験。合格後、広島県呉市にあった工廠「第十一海軍航空廠（以下空廠）」



工廠：軍直属の軍需工場。兵器・武器・弾薬をはじめ軍需品の開発・製造・修理などを行う施設。呉、横浜、佐世保などにあり、多くの学徒が動員された。写真：呉海軍工廠跡

への勤務を命じられ、三月三十日に多度津港から輸送船に乗った。自ら進んで希望した身であったが、大勢の見送りを受け出港したときは涙が止まらなかった。横路にある女子寮で八人一部屋、二段ベッドでの生活が始まる。食料難の中なので、麦と大豆の入ったご飯。お腹を空かして故

十五歳の軍需工員

土器町 中田 貞子さん

女子年少工：国民総動員体制の下、女子挺身隊や高校生に混じって、少女たちも工場などで働いた。

郷恋しと淋しさにたまらず、夜になると皆で抱き合って泣いた日々。辛いことばかりだった。でも、戦場で戦う兵士のことを思い励まし合った。戦闘帽に作業服で軍歌を歌いながら工場へ向かう。作業はボルトの部品検査。「ノギス」という工具も初めて知った。最も基本的な測定工具

の三豊市）へ空廠が疎開することとなり転属が決定。十二月中旬に香川県に帰って来た。家には近くなつたが、外泊は許されず寮生活だった。「二式大艇」の洗浄班に配属され、初めて機体の大きさに驚くと共に、この機で戦争にと身の引き締まる思いに駆られた。



二式大艇：正式には「二式大型飛行艇」。長距離の偵察、爆撃機として日本海軍が開発した四発大型飛行機で一時は世界最高の性能を誇った。写真：詫間海軍航空隊所屬機。現在、海上自衛隊鹿屋航空基地資料館展示。中田さん所有

作業は飛行艇の洗浄である。船体には海水の浸入を防止するために水密塗料を使用していた。修理の際はその塗料をアセトンやベンゾールで拭いて取り除かなければならない。アセトンは蒸発が早いので気化熱を取る。今のように防水手袋があれば良いのだが、私達は素手での作業だった。凍傷で腫れ上がり、冬の最中、

冷たく寒く、ヒビ切れにも悩まされ辛い毎日だったが、一にお国のため、二にもお国のためと歯を食いしばって頑張り通した。戦禍は更に激しくなり、東の空が真っ赤になった高松空襲の時は、近くの煙草畑に避難して隠れ、ぶるぶる震えたのを思い出

す。食事はやはり少なく、近くの農家でミカンやサツマイモをモンペの中に切り切らない程買って、寮で皆と分け合つて飢えを凌いだのも遠い思い出になった。詫間工場で鮮明に憶えているのは、米軍の艦載機の襲撃があった

時、私達は、裏山の横穴に避難したが、一生懸命に修理した二式大艇が敵機に撃たれて煙を噴出したことである。恐ろしさよりも悔しさで涙がポロポロ出たのも忘れられない。もう戦後七十年。私達の青春を捧げた第十一海軍航空廠詫間工場「二式大艇」。

第十一海軍工空廠の歌
いや栄えゆく 秋津世の
御威光は招く大八州
国護る枝の旗の基
さやけき廣の浦波に
いらか並びてそそりたつ
我らが海軍航空廠



昭和20年2月頃撮影。海軍航空廠詫間工場時代。後列中央が中田さん



神風特別攻撃隊出撃の地
詫間海軍航空隊の跡地に建つ揭示板

後世の人たちが、私たちの必死の気持ち、苦勞、辛さ、悔しさを少しでも理解してくれればとの思いでいっぱいです。第十一海軍航空廠詫間工場こそ私達の青春である。

平和のために語り継ぐ 「戦争体験談」 などを募集します

秘書広報課 ☎24-8801



昨年、戦後70年の節目にあわせて、二度と戦争を繰り返さないために、広報丸亀で「戦争体験談」を募集しました。お寄せいただいた体験談を掲載したところ、ご覧になった皆さんから、寄稿や問い合わせを多くいただいています。

秘書広報課では、戦争を知らない世代に貴重な体験を語り継ぐため、引き続き体験談などを募集します。

内容

戦争体験や戦争中の生活を伝える体験談400字～最大2000字(原稿用紙1～5枚)・資料など(使用後返却)

応募方法など

住所、氏名、年齢、電話番号を記入して郵送か持参またはEメールで秘書広報課まで。順次広報丸亀などで紹介させていただきます。

送付・問い合わせ

〒763-8501 大手町二丁目3番1号
秘書広報課 ☎24-8801
hishokoho-k@city.marugame.lg.jp

